

講義要綱

2025年度

昼間課程 1学年

学年担任 稲葉 貴宏



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目次

昼間課程 単位表	4
昼間課程 1学年	
医学英語 I	5
情報科学・プレゼンテーション	6
医療の歴史と倫理	7
理学療法の職域と位置付け	8
心理	9
人間関係・コミュニケーション論 I	10
保健体育 I	11
公衆衛生	12
人体の構造と機能 総論	13
人体の構造と機能 各論 I (神経系の構造)	14
人体の構造と機能 各論 II (神経系の機能)	15
人体の構造と機能 各論 III (運動器系の構造)	16
人体の構造と機能 各論 IV (運動器系の機能)	17
人体の構造と機能 各論 V (内臓諸器官の構造)	18
人体の構造と機能 各論 VI (内臓諸器官の機能)	19
人体の構造と機能 演習 (表面解剖)	20
運動学 I (四肢体幹の運動)	21
運動学 II (姿勢と動作)	22
運動学 III (運動生理・運動学習)	23
運動学演習	24
人間発達	25
疾病・病態論	26
地域保健福祉論	27
リハビリテーション概論	28
理学療法概論	29
障害と理学療法手法	30
理学療法評価概論	31
理学療法評価 I	32
理学療法評価 II	33
運動療法 I	34
理学療法総合理解 I	35
総合理学療法 I	36
基本動作支援技術	37
臨床実習 I	38

医療専門課程理学療法学科（昼間課程）

	科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数	
				単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間			
基礎分野	科学的思考の 基盤	医学英語Ⅰ	講義	1	16			1	16	1	16	
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16	
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30	
		医療統計	講義					1	16	1	16	
		人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16	
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法の職域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	3	48					3	48	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	30			1	30	
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
	社会の理解	保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		公衆衛生	講義	1	16					1	16	
基礎合計				10	188	2	46	4	64	16	298	
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓諸器官の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓諸器官の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ（四肢幹の運動）	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		(小計)		17	412	0	0	0	0	17	412	
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30
			臨床心理	講義			1	16			1	16
			病理	講義	1	16					1	16
	内科と理学療法		講義	1	30					1	30	
	老年期障害と理学療法		講義	1	30					1	30	
	整形外科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	神経内科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	精神医学と理学療法		講義					1	30	1	30	
	小児科と理学療法		講義					1	16	1	16	
	一般臨床医学と理学療法		講義			1	30			1	30	
	(小計)		1	30	11	218	2	46	14	294		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
		(小計)		2	32	0	0	2	30	4	62	
	専門基礎分野合計				20	474	11	218	4	76	35	768
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
			理学療法研究法	講義			2	30			2	30
			(小計)		3	60	3	60	0	0	6	120
		理学療法管理学	理学療法管理学	講義					2	30	2	30
			(小計)		0	0	0	0	2	30	2	30
		理学療法評価学	理学療法評価概論	講義	1	16					1	16
			理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅲ	演習			2	30			2	30
			理学療法評価Ⅳ	演習			2	30			2	30
			理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44
			(小計)		3	104	4	60	1	44	8	208
		理学療法治療学	運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30
			運動療法Ⅱ	演習			3	48			3	48
			運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30
物理療法			演習			1	30			1	30	
日常生活活動			講義			1	30			1	30	
日常生活活動演習			演習					3	48	3	48	
装具学			講義			1	30			1	30	
義肢学			講義					1	30	1	30	
疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）			演習			3	48			3	48	
疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）			演習					3	48	3	48	
疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）			講義					1	16	1	16	
理学療法演習			実習					1	44	1	44	
理学療法総合理解Ⅰ			演習	2	60					2	60	
理学療法総合理解Ⅱ			演習			2	60			2	60	
理学療法総合理解Ⅲ			演習					2	60	2	60	
理学療法特論			演習					2	60	2	60	
総合理学療法Ⅰ			実習	1	44					1	44	
総合理学療法Ⅱ			実習			1	44			1	44	
総合理学療法Ⅲ			実習					1	44	1	44	
総合理学療法Ⅳ		演習					1	30	1	30		
(小計)			4	134	18	386	16	410	38	930		
地域理学療法学		基本動作支援技術	演習	1	30					1	30	
		地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30	
		生活環境論	講義					1	16	1	16	
		(小計)		1	30	1	30	1	16	3	76	
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405	
		臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45	
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405	
		(小計)		1	45	10	450	9	405	20	900	
専門分野合計				12	373	36	986	29	905	77	2264	
必修科目授業合計				42	1035	49	1250	37	1045	128	3330	
選択科目授業合計					0		0		0		0	
卒業に必要な総授業時間数				42	1035	49	1250	37	1045	128	3330	

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	医学英語 I	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

基礎的な医学用語(筋骨格系、運動方向等の運動学関係、接頭語・接尾語、他)について学習する。

II 到達目標

基礎的な医学用語について、日本語名と英語名を一致させることができる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	接頭語・接尾語
3	骨の名称
4	筋の名称
5	動作の表現(運動の面と軸、運動方向、姿勢、他)
6	リハビリテーションチーム
7	理学療法に用いられる用語(疾患名、障害名)
8	まとめ

IV 成績評価

小テスト及び課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	情報科学・プレゼンテーション	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔	担当教員	土屋 稔

I 教育目標

情報の取り扱い(情報化社会、個人情報保護等)、基本的なパソコン操作(文書ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等)について習得する。
プレゼンテーションの手法について学習する。

II 到達目標

情報の取り扱いの注意点について説明できる。
上記のソフトを使用して、基本的な書類を作成できる。
簡単なプレゼンテーションが実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	情報とは: 個人情報の取り扱いについて
2	OSとは: PCの諸設定、フォルダの操作、電子メール(仕組みと設定)
3	情報の種類とまとめ方: 基本的PC操作
4	情報リテラシー(情報機器、ITネットワークの活用)、情報社会のモラルとセキュリティ
5	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 1
6	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 2
7	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 3
8	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 1
9	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 2
10	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 3
11	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 4
12	文献とは: 文献検索の方法
13	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 1
14	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 2
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

必要に応じて資料を配布する。

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	医療の歴史と倫理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について学習する。

II 到達目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 倫理学とは
2	医療倫理の起源
3	医療倫理の原則①
4	医療倫理の原則②
5	理学療法士法
6	理学療法士における倫理①
7	理学療法士における倫理②
8	理学療法士における倫理③

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	理学療法の職域と位置付け	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

理学療法士が活躍する職域について解説をします。多種多様な知識の習得と生涯学習の必要性を学ぶ。

II 到達目標

理学療法士が活躍する職域について解説をします。多種多様な知識の習得と生涯学習の必要性を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	体験学習①国立障害者リハビリテーションセンターでの理学療法
2	体験学習②国立障害者リハビリテーションセンターでのリハビリテーションでの理学療法
3	体験学習③埼玉県総合リハビリテーションセンターでの理学療法
4	体験学習④埼玉県総合リハビリテーションセンターでの理学療法
5	体験学習⑤国際的なリハビリテーションでの理学療法
6	体験学習⑥国際的なリハビリテーションでの理学療法
7	体験学習⑦研究所での理学療法
8	体験学習⑧研究所での理学療法

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について学習する。

II 到達目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 心理学とは
2	心理学の歴史
3	感覚と知覚
4	記憶(短期・長期・手続き記憶・エピソード記憶・意味記憶・作業記憶)
5	防衛機制・転移
6	パーソナリティ
7	発達段階の心理、ライフサイクル
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

リハベーシック 心理学・臨床心理学(医歯薬出版)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人間関係・コミュニケーション論 I	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	鈴木 健司・他	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

自己概念・価値観・第一印象・コミュニケーション・感情表出など人間関係構築の基本となる概念を学習する。

II 到達目標

自己理解、他者理解の基本を理解し、他者との関係をどのように構築したらよいか説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	人間関係と医療現場 コミュニケーションとは	16	人間関係・コミュニケーション演習⑨
2	人間の心理 パーソナルスペースの使い方	17	人間関係・コミュニケーション演習⑩
3	タイプ別人間関係 好意を獲得するテクニック	18	人間関係・コミュニケーション演習⑪
4	人間理解の方法 自己開示とフィードバック傾聴	19	人間関係・コミュニケーション演習⑫
5	ホスピタリティとは 言葉遣いのマナー ラポールとストローク	20	人間関係・コミュニケーション演習⑬
6	コミュニケーション(話し方・聴き方)	21	人間関係・コミュニケーション演習⑭
7	ストレス(ストレッサー、反応、対処法)	22	人間関係・コミュニケーション演習⑮
8	人間関係・コミュニケーション演習①	23	まとめ①
9	人間関係・コミュニケーション演習②	24	まとめ②
10	人間関係・コミュニケーション演習③		
11	人間関係・コミュニケーション演習④		
12	人間関係・コミュニケーション演習⑤		
13	人間関係・コミュニケーション演習⑥		
14	人間関係・コミュニケーション演習⑦		
15	人間関係・コミュニケーション演習⑧		

IV 成績評価

課題レポート提出により評価する。

V 教科書

必要に応じて資料を配布する。

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	保健体育 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	稲葉 貴宏・他	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

グループ活動、スポーツの実践を通して、心身の健康、計画性、主体的な行動、グループとしての連帯性について学習する。

II 到達目標

グループ活動、スポーツの実践を通し、グループのメンバーとして責任を持った行動ができる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション(全体の流れ)
2	校外学習に向けての準備1
3	校外学習に向けての準備2
4	保健体育演習 I-1
5	保健体育演習 I-2
6	保健体育演習 I-3
7	保健体育演習 I-4
8	保健体育演習 II-1
9	保健体育演習 II-2
10	保健体育演習 II-3
11	保健体育演習 II-4
12	保健体育演習 III-1
13	保健体育演習 III-2
14	保健体育演習 III-3
15	保健体育演習 III-4

IV 成績評価

課題提出やレポート提出により評価する。

V 教科書

必要に応じて資料を配布する。

2024年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	公衆衛生	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

健康と社会の関わりについて、興味を持って学んでいただく。

II 到達目標

健康の概念、健康と社会環境について説明できるようになっていただきたい。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 健康とは 人と健康と生活
2	災害と健康 人口について 社会保障
3	公衆衛生とは 感染症について
4	疾病予防と健康管理(一次予防、二次予防、三次予防)
5	健康生活と環境
6	ストレスと健康管理
7	生活スタイルの評価と行動変容
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 総論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

人体の解剖および生理的仕組みの基礎について学習する。
人体の発生および細胞の成り立ちについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 解剖学・生理学とは
2	感覚器について
3	脳と神経について
4	消化器について
5	呼吸器について
6	循環器について
7	運動器について①
8	運動器について②
9	前半のまとめ
10	細胞小器官
11	細胞の種類と機能
12	代謝、生体内の化学反応
13	遺伝① 細胞分裂と発生
14	遺伝② 染色体、遺伝子
15	後半のまとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
基礎運動学 第7版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅰ (神経系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	稲葉 貴宏	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

中枢神経系の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	細胞の構造、三杯葉から形成される器官
2	神経とは ニューロンの構造、シナプス
3	中枢神経と末梢神経の違い、神経支配の階層性
4	細胞膜電位、活動電位、筋収縮の仕組み
5	脊髄 脊髄の構造と機能
6	脳幹 延髄、橋、中脳の構造と機能
7	間脳の構造と機能(視床、視床下部、下垂体)
8	小脳の構造と機能
9	大脳の構造と機能①(大脳皮質、連合野、皮質下白質)
10	大脳の構造と機能②(大脳基底核)
11	大脳の構造と機能③(大脳辺縁系)
12	運動系の伝導路(錐体路、錐体外路)
13	感覚系の伝導路(脊髄視床路、後索—内側毛帯路)
14	脳脊髄液の循環 Willis動脈輪、神経膠細胞
15	神経の構造と機能、伝導の法則、まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社) 配布プリント

2024年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅱ (神経系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

末梢神経系の構造と機能について学習する。
感覚諸器官(皮膚を含む)の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	中枢神経と末梢神経の働き
2	脳神経① I 嗅神経～VI 外転神経
3	脳神経② VII 顔面神経～XII 舌下神経
4	脊髄神経① 頸神経叢、腕神経叢
5	脊髄神経② 腰神経叢、仙骨神経叢
6	脊髄神経③ 体肢、髄節
7	自律神経 交感神経①
8	自律神経 交感神経②
9	自律神経 副交感神経①
10	自律神経 副交感神経②
11	感覚器① 皮膚の構造と感覚受容器 体性感覚の構造と機能
12	感覚器② 特殊感覚器の構造と機能(嗅覚、視覚)
13	感覚器③ 特殊感覚器の構造と機能(聴覚、平衡覚、味覚)
14	神経線維の構造と機能 伝導と伝達、活動電位
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅲ (運動器系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

運動器(骨格系、筋系)の構造について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動器の概観 運動器の構成要素、関節運動におけるテコの作用、全身の骨格(名称)
2	骨の構造 組織構造、骨吸収と骨形成、Ca代謝、P吸収
3	骨量と運動、骨の成長・維持と修復、骨粗鬆症
4	骨の連結と運動 骨の連結、関節の構造、関節の形状、関節運動
5	上肢(1) 上肢帯、上腕骨と肩関節
6	上肢(2) 肘関節 前腕の骨と3つの関節
7	上肢(3) 手関節と手部、手根骨～指骨
8	上肢(4) まとめ
9	体幹(1) 脊柱の構造
10	体幹(2) 胸郭の構造
11	体幹(3) 頭蓋の構造
12	下肢(1) 下肢帯、大腿骨と股関節
13	下肢(2) 膝関節、下腿の骨
14	下肢(3) 足関節と足部、足根骨～趾骨、足弓
15	下肢(4) まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社) 配布プリント

2024年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅳ (運動器系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

運動器の機能(筋収縮のメカニズム、筋の神経支配を含む)について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	筋の概要
2	筋の構造 骨格筋と平滑筋
3	筋の機能 赤筋と白筋
4	骨格筋の微細構造と収縮メカニズム
5	筋の収縮様式と運動単位
6	上肢帯(肩甲帯、肩関節) 作用する筋と運動
7	肘関節 作用する筋と運動
8	手・手関節 作用する筋と運動
9	上肢のまとめ
10	下肢帯(股関節) 作用する筋と運動
11	膝関節 作用する筋と運動
12	足・足関節 作用する筋と運動
13	下肢のまとめ
14	体幹・脊柱と胸郭の筋
15	頭部・顔面の筋

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

基礎運動学 第7版(医歯薬出版) 人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社) 配布プリント
--

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅴ (内臓諸器官の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔	担当教員	土屋 稔

I 教育目標

内臓諸器官(主に循環器系、呼吸器系、および血液系)の構造と機能について学習する。
--

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器の構造1
2	呼吸器の構造2
3	呼吸器の機能1
4	呼吸器の機能2
5	呼吸器の機能3
6	循環器の構造1
7	循環器の構造2
8	循環器の構造3
9	循環器の機能1
10	循環器の機能2
11	循環器の機能3
12	リンパ系の構造
13	リンパ系の機能
14	血液系の構造と機能
15	まとめ

IV 成績評価

小テスト及び学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論VI (内臓諸器官の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	0	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

内臓諸器官(主に消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、免疫系および内分泌系)の機能について学習する。
--

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	消化管の構造
2	消化管の機能1
3	消化管の機能2
4	肝臓・胆嚢の構造
5	肝臓・胆嚢の機能
6	膵臓の構造と機能
7	腎臓の構造
8	腎臓の機能1
9	腎臓の機能2
10	生殖器の構造
11	生殖器の機能
12	免疫系の構造と機能
13	内分泌の構造
14	内分泌の機能
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社) NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第3版

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 演習 (表面解剖)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

学習した人体の構造と機能について、骨指標、筋、血管、神経等を体表から観察、触察し再学習する。体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

基本的な骨指標、筋、血管、神経等を触察できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論、臨床的意義、触診方法、注意点	16	体幹下部の筋
2	触診の基礎(骨と筋の触り方)	17	上肢・下肢の靭帯・動脈等
3	主要な骨指標の触診1 上肢帯・上肢①	18	上肢に対するテーピング
4	主要な骨指標の触診2 上肢帯・上肢②	19	上肢に対するテーピング
5	主要な骨指標の触診3 下肢帯・下肢①	20	下肢に対するテーピング
6	主要な骨指標の触診4 下肢帯・下肢②	21	下肢に対するテーピング
7	主要な骨指標の触診5 脊柱・手部・足部	22	上肢 触察のまとめ
8	上肢帯の筋	23	下肢 触察のまとめ
9	肩関節周囲の筋	24	体幹 触察のまとめ
10	肘関節・前腕の筋		
11	手部の筋 まとめ(体幹・上肢)		
12	股関節に作用する筋		
13	膝関節に作用する筋		
14	足関節に作用する筋		
15	体幹上部の筋		

IV 成績評価

学力試験(筆記試験・実技試験)により評価する。

V 教科書

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
【改訂第6版】ボディナビゲーション(医道の日本社)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	運動学 I (四肢体幹の運動)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	森田 敬介	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

関節の種類と構成要素、関節運動のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論(運動学とは)、運動学の基礎	16	脊柱の筋と運動(2)
2	関節の運動(構造と機能)	17	頸椎・胸椎の筋と運動、胸郭の筋と運動
3	上肢帯と肩関節の筋と運動(1)	18	腰椎の筋と運動(1)
4	上肢帯と肩関節の筋と運動(2)	19	腰椎の筋と運動(2)
5	肘関節と前腕の筋と運動	20	頭部・頸部の筋と運動(1)
6	手関節の筋と運動	21	頭部・頸部の筋と運動(2)
7	手指の筋と運動(1)	22	関節の副運動、凹凸の法則
8	手指の筋と運動(2)	23	歩行の基礎
9	下肢帯と股関節の筋と運動(1)	24	まとめ
10	下肢帯と股関節の筋と運動(2)		
11	膝関節の筋と運動(1)		
12	膝関節の筋と運動(2)		
13	足関節の筋と運動(1)		
14	足関節の筋と運動(2)		
15	脊柱の筋と運動(1)		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

基礎運動学 第7版(医歯薬出版) 配布資料 参考資料: 身体運動学 関節の制御機構と筋機能(メジカルビュー社)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	運動学Ⅱ (姿勢と動作)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	奥平 貴仁	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

基本動作のメカニズム、姿勢制御・運動制御のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢と動作におけるバイオメカニクス
2	臥位姿勢
3	寝返り動作
4	起き上がり動作
5	座位姿勢①
6	座位姿勢②
7	立ち上がり動作①
8	立ち上がり動作②
9	立位姿勢①
10	立位姿勢②
11	姿勢制御
12	体圧分散測定:背臥位、座位、立位
13	歩行(1)
14	歩行(2)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) 配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	運動学Ⅲ (運動生理・運動学習)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

運動時における生体反応およびエネルギー代謝、摂食嚥下のメカニズム、運動処方 ¹ の基礎、運動学習の理論と過程について学習する。パーソナルトレーニングに関わる運動理論について学ぶ。
--

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動生理とは 呼吸・循環・代謝の関係性
2	運動と呼吸機能
3	運動と循環機能
4	運動と栄養① 消化と吸収
5	運動と栄養② 栄養素
6	運動とエネルギー代謝① ATP産生、呼吸商
7	運動とエネルギー代謝② 基礎代謝、エネルギー代謝率
8	運動とエネルギー代謝③ 代謝当量
9	運動処方① 体力とは 無酸素性エネルギー
10	運動処方② 有酸素性エネルギー、運動処方
11	運動負荷試験
12	自覚的運動強度、運動訓練の原理
13	運動とバイタルサイン(演習)
14	運動負荷試験(演習)
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第3版
--

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	運動学演習	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔・他	担当教員	土屋 稔

I 教育目標

人体の構造と機能、運動学Ⅰ～Ⅲで学習した内容について、実験的考察を踏まえ再学習する。

II 到達目標

上記の内容について実験的考察を行い、説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	心電図1
2	心電図2
3	エネルギー代謝1
4	エネルギー代謝2
5	運動処方1
6	運動処方2
7	運動処方3
8	運動処方4
9	演習1
10	演習2
11	演習3
12	演習4
13	演習5
14	演習6
15	演習7

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

基礎運動学 第7版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	疾病・病態論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

リハビリテーション・理学療法の対象となる疾病の成り立ちおよび病態の概要について学習する。
--

II 到達目標

学習した疾病について、疾病の成り立ちおよび病態の概要を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	脳血管障害(概要・症状)
2	脳血管障害(症状・高次脳機能障害)
3	脳挫傷・脳性麻痺
4	脊髄損傷・二分脊椎
5	神経・筋疾患① (パーキンソン病、パーキンソン症候群)
6	神経・筋疾患② (脊髄小脳変性症、多発性硬化症)
7	神経・筋疾患③(筋萎縮性側索硬化症)
8	末梢神経障害
9	認知症
10	骨関節疾患1(骨折・切断)
11	骨関節疾患2(変形性関節症・関節リウマチ)
12	呼吸器疾患、循環器疾患
13	呼吸器疾患、循環器疾患
14	代謝疾患
15	慢性疼痛、熱傷、癌、外科手術後

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院) 配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	地域保健福祉論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	柳川 茉里奈	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

社会保障制度の種類と歴史、医療・保健・福祉とリハビリテーションの関係、地域包括ケアシステム、多職種連携等について学習する。

II 到達目標

上記内容について理解し、地域におけるリハビリテーションの役割について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	日本国憲法第25条生存権について 社会保障、社会保険の仕組み、原理について
2	団塊の世代について 医療保険制度について
3	介護保険制度について 介護保険サービスの内容(概要)について
4	地域包括ケアシステムについて
5	地域ケア会議と理学療法士の役割 医療と介護の連携について
6	介護保険におけるサービスの種類
7	「障害」とは何か 社会の在り方について
8	終末期医療について これまでのまとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	理学療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	稲葉 貴宏	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

理学療法の概要、役割、過程、職能等について、臨床場面の見学を通して学習する。
理学療法士を目指す学生としてふさわしい基本的な態度について考察する。

II 到達目標

上記内容に対して臨床場面を見学し結果について説明できる。
見学中に理学療法士を目指す学生としてふさわしい態度・行動を取れる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	理学療法とは 理学療法の過程と臨床実習
3	理学療法士の心構え
4	施設見学Ⅰ-1
5	施設見学Ⅰ-2
6	施設見学Ⅱ-1
7	施設見学Ⅱ-2
8	施設見学Ⅲ-1
9	施設見学Ⅲ-2
10	施設見学Ⅳ-1
11	施設見学Ⅳ-2
12	施設見学Ⅴ-1
13	施設見学Ⅴ-2
14	施設見学Ⅵ-1
15	施設見学Ⅵ-2

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

必要に応じて資料を配布する。

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	障害と理学療法手法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

理学療法の対象となる機能障害の病態・メカニズムと理学療法の関係について学習する。
理学療法手法の概要について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢制御 1
2	姿勢制御 2
3	姿勢制御 3
4	歩行1
5	歩行2
6	運動学習1
7	運動学習2
8	運動学習3
9	運動学習4
10	関節運動1
11	関節運動2
12	筋収縮と筋力1
13	筋収縮と筋力2
14	持久力
15	運動療法・物理療法概論

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

基礎運動学 第7版補訂(医歯薬出版)
Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	理学療法評価 I	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	黒木 真登	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

機能形態計測（四肢長、周径等）、関節可動域制限と関連要因に対する評価、疼痛（急性痛、慢性疼痛）に対する評価、脳神経検査について習得する。

II 到達目標

機能形態計測、関節可動域測定、疼痛に関する評価、脳神経検査について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	関節可動域測定⑤
2	検査測定の進め方	17	関節可動域測定⑥
3	四肢長・周径①	18	関節可動域測定⑦
4	四肢長・周径②	19	関節可動域測定⑧
5	四肢長・周径③	20	関節可動域測定⑨
6	四肢長・周径④	21	関節可動域測定⑩
7	脳神経検査①	22	まとめ
8	脳神経検査②		
9	脳神経検査③		
10	脳神経検査④		
11	痛みの評価		
12	関節可動域測定①		
13	関節可動域測定②		
14	関節可動域測定③		
15	関節可動域測定④		

IV 成績評価

学力試験（筆記試験7割・実技試験3割の配分）により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	理学療法評価Ⅱ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

神経学的所見(反射異常、筋緊張異常等)に対する評価、筋力低下に対する評価、感覚異常に対する評価を習得する。

II 到達目標

反射検査、筋緊張検査、筋力検査、感覚検査について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	徒手筋力検査⑦
2	深部腱反射・病的反射検査①	17	徒手筋力検査⑧
3	深部腱反射・病的反射検査②	18	徒手筋力検査⑨
4	深部腱反射・病的反射検査③	19	徒手筋力検査⑩
5	筋緊張検査①	20	徒手筋力検査⑪
6	筋緊張検査②	21	検査測定手順 演習
7	感覚検査①	22	まとめ
8	感覚検査②		
9	感覚検査③		
10	徒手筋力検査①		
11	徒手筋力検査②		
12	徒手筋力検査③		
13	徒手筋力検査④		
14	徒手筋力検査⑤		
15	徒手筋力検査⑥		

IV 成績評価

学力試験(筆記試験7割・実技試験3割の配分)により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版) ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂) 新・徒手筋力検査法 原著第10版(エルゼビア・ジャパン)
--

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	運動療法 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	柳川茉里奈	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

関節可動域制限に対する運動療法を習得する。 筋力低下に対する運動療法を習得する。

II 到達目標

関節可動域運動を説明、実践できる。 筋力増強運動を説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動療法 総論(目的・概念)
2	運動療法の対象と目的
3	関節可動域運動1 関節の構造と運動、関節運動の制限、拘縮
4	関節可動域運動2 上肢帯・肩関節
5	関節可動域運動3 肘関節・前腕・手関節
6	関節可動域運動4 股関節・膝関節
7	関節可動域運動5 足関節・足部・体幹
8	筋力維持増強運動1 筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋線維の分類
9	筋力維持増強運動2 筋肥大のメカニズム、過負荷の法則、OKGとCKC
10	筋力維持増強運動3 上肢
11	筋力維持増強運動4 下肢
12	筋力維持増強運動5 体幹
13	柔軟性、ウォームアップ概念①
14	柔軟性、ウォームアップ概念②
15	有酸素トレーニングのプログラムデザイン

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社) NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識(特定非営利活動法人NSCAジャパン)第12章、第16章
--

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	理学療法総合理解 I	単位・時間数	2単位・60時間
	講師	稲葉 貴宏・他	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

1年次に学習する基礎分野(特に人体の正常構造と機能)について理解する。

II 到達目標

人体の正常構造、機能を理解するとともに異常についても理解を深める。
理学療法に必要な基礎知識を理解し、各科目の要点を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、演習1 構造	16	演習16 構造
2	演習2 構造	17	演習17 構造
3	演習3 構造	18	演習18 構造
4	演習4 構造	19	演習19 機能
5	演習5 構造	20	演習20 機能
6	演習6 機能	21	演習21 機能
7	演習7 機能	22	演習22 運動学
8	演習8 機能	23	演習23 運動学
9	演習9 機能	24	演習24 運動学
10	演習10 運動学	25	演習25 基礎評価
11	演習11 運動学	26	演習26 基礎評価
12	演習12 運動学	27	演習27 基礎評価
13	演習13 運動学	28	演習28 基礎評価
14	演習14(小テスト)	29	演習29 基礎評価
15	演習15(小テスト)	30	演習30 基礎評価

IV 成績評価

小テストおよび学力試験により評価する。

V 教科書

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門基礎分野 基礎医学(医歯薬出版)
理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門分野 基礎PT学(医歯薬出版)
配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	総合理学療法 I	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	稲葉 貴宏・他	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

臨床実習 I の事前・事後学習として1年次の学習内容を深める。
臨床での理学療法の具体的な手順と方法を学習する。

II 到達目標

臨床実習 I に必要な事前準備が実践できる。
臨床実習 I での体験を基に臨床での理学療法の進め方を具体的に説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 臨床実習教育について	16	事前学習2
2	理学療法の処方から治療までの流れ	17	事前学習3
3	情報収集について①(基礎情報・医学的情報情報・社会的情報)	18	事前学習4
4	情報収集について②(基礎情報・医学的情報情報・社会的情報)	19	臨床実習 I 実習内容発表会1
5	他部門の専門性と情報収集	20	臨床実習 I 実習内容発表会2
6	医療面接について	21	臨床実習 I 実習内容発表会3
7	接遇について	22	臨床実習 I 実習内容発表会4
8	理学療法検査測定について		
9	統合と解釈 問題点抽出(ICF、ICIDH)について		
10	目標設定 理学療法治療介入計画立案について		
11	学生紹介書の作成について		
12	臨床実習 I 手引きの理解と実習計画について		
13	臨床実習 I 実習計画書の作成について		
14	実習課題について ①デイリーノート ②症例報告書(レポート) ③症例要約(レジュメ)		
15	事前学習1		

IV 成績評価

課題レポートおよび発表により評価する。

V 教科書

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)
理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	基本動作支援技術	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	武田 夢人	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

起居・移動・移乗動作の基礎、介助方法、動作を引き出す方法について学習する。

II 到達目標

動作の基礎を理解し、基本的な介助方法が実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	基本動作介助法1 姿勢(体位と構え)とは、基本動作とは、介助の心得、介助と介護の違い
2	基本動作介助法2 寝返り
3	基本動作介助法3 起き上がり
4	基本動作介助法4 端座位、靴の着脱、座位からの立ち上がり
5	基本動作介助法5 立位
6	移乗動作介助法1 車椅子への移乗、ステップ動作あり・なし
7	移乗動作介助法2 一部介助から全介助
8	基本動作介助法6 床からの立ち上がり
9	車椅子介助法1 車椅子の名称・種類、メンテナンスや調整方法
10	車椅子介助法2 走行介助(平地、段差、スロープ・坂道、エレベーター乗車)
11	車椅子介助法3 車椅子座位姿勢の修正介助(ずり落ち、傾斜姿勢)
12	歩行介助法1 杖の種類・選定・調整方法、短下肢装具(AFO)の装着介助
13	歩行介助法2 前方・後方・側方介助の方法
14	歩行介助法3 階段(段差)昇降の介助
15	疾患(片麻痺、大腿骨頸部骨折)を想定した基本姿勢、基本動作介助

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	臨床実習 I	単位・時間数	1単位・45時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

医療施設において理学療法介入を見学し、理学療法についての理解を深める。
対象者との接遇について体験を通して学習する。

II 到達目標

理学療法介入見学について記録を作成できる。
対象者との接遇について注意点および工夫を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

学校が指定した医療機関等で5日間の見学実習を行う。

※詳細は臨床実習 I 手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習計画書(事前学習を含む)、実習指導報告書、デイリーノート、見学・体験報告書等を総合的に判断して評価する。

V 教科書

臨床実習 I 手引き

2024年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

1学年	科目	HR、特別講義 等	単位・時間数	適宜開催
	講師	稲葉 貴宏	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

社会人、医療従事者になるために必要な心構えや学業への取り組む姿勢を考え、身に付ける。
--

II 到達目標

①学則に則ったルールを理解し、行動すること。 ②報告・連絡・相談の習慣を身に付けること。 ③提出物の期日を厳守すること

III 学習内容(シラバス)

1	入学時オリエンテーション
2	入学時オリエンテーション
3	入学時オリエンテーション
4	入学時オリエンテーション
5	授業開始に伴う取り組み方、ノートのまとめ方
6	スケジュール管理について
7	提出物の提出方法 期日の確認について
8	夏期休暇前HR
9	夏期休暇後HR
10	施設見学前の準備
11	施設見学前の準備
12	実習後HR
13	冬期休暇前HR
14	冬期休暇後HR
15	終業式後HR

IV 成績評価

特記事項なし

V 教科書

配布プリント

学校法人医学アカデミー
医学アカデミー 理学療法学科
〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1丁目18番地1
TEL. 049-245-6853(教務直通)
e-mail. info@iapt.igakuacademy.ac.jp

講義要綱

2025年度

昼間課程 2学年

学年担任 永野 真奈美



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目次

昼間課程 単位表	4
昼間課程 2学年	
人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	5
保健体育Ⅱ	6
臨床心理	7
病理	8
内科と理学療法	9
老年期障害と理学療法	10
整形外科と理学療法	11
神経内科と理学療法	12
一般臨床医学と理学療法	13
臨床運動学	14
理学療法研究法	15
理学療法評価Ⅲ	16
理学療法評価Ⅳ	17
運動療法Ⅱ	18
物理療法	19
日常生活活動	20
装具学	21
疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)	22
疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)	23
疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	24
理学療法総理解Ⅱ	25
総合理学療法Ⅱ	26
地域リハビリテーション(地域包括ケア、介護予防)	27
臨床実習Ⅱ	28
臨床実習Ⅲ(地域リハビリテーション実習)	29
HR、特別講義等	30

医療専門課程理学療法学科(昼間課程)

科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数		
			単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間				
基礎分野	科学的思考の 基盤	医学英語Ⅰ	講義	1	16				1	16		
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16	
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30	
		医療統計	講義					1	16	1	16	
		人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16	
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法士の職域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	3	48					3	48	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	30			1	30	
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
	社会の理解	保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		公衆衛生	講義	1	16					1	16	
	基礎合計			10	188	2	46	4	64	16	298	
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ(神経系の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ(神経系の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ(運動器系の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ(運動器系の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ(内臓器系の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ(内臓器系の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習(表面解剖)	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ(四肢体幹の運動)	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ(姿勢と動作)	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ(運動生理・運動学習)	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		(小計)		17	412	0	0	0	0	17	412	
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30
			臨床心理	講義			1	16			1	16
			病理	講義			1	16			1	16
	内科と理学療法		講義	1	30					1	30	
	老年期障害と理学療法		講義	1	30					1	30	
	整形外科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	神経内科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	精神医学と理学療法		講義					1	30	1	30	
	小児科と理学療法		講義					1	16	1	16	
	一般臨床医学と理学療法		講義			1	30			1	30	
	(小計)		1	30	11	218	2	46	14	294		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
	(小計)		2	32	0	0	2	30	4	62		
	専門基礎分野合計		20	474	11	218	4	76	35	768		
	専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
			理学療法研究法	講義			2	30			2	30
			(小計)		3	60	3	60	0	0	6	120
		理学療法管理学	理学療法管理学	講義					2	30	2	30
			(小計)		0	0	0	0	2	30	2	30
		理学療法評価学	理学療法評価概論	講義	1	16					1	16
			理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44
			理学療法評価Ⅲ	演習			2	30			2	30
			理学療法評価Ⅳ	演習			2	30			2	30
			理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44
		(小計)		3	104	4	60	1	44	8	208	
		理学療法治療学	運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30
運動療法Ⅱ			演習			3	48			3	48	
運動療法Ⅲ			演習					1	30	1	30	
物理療法			演習			1	30			1	30	
日常生活活動			講義			1	30			1	30	
日常生活活動演習			演習					3	48	3	48	
装具学			講義			1	30			1	30	
義肢学			講義					1	30	1	30	
疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)			演習	3	48					3	48	
疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)			演習	3	48					3	48	
疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)			演習	3	48					3	48	
疾患別理学療法Ⅳ(内部障害)			演習					3	48	3	48	
疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)			講義					1	16	1	16	
理学療法演習			実習					1	44	1	44	
理学療法総理解Ⅰ			演習	2	60					2	60	
理学療法総理解Ⅱ			演習			2	60			2	60	
理学療法総理解Ⅲ			演習					2	60	2	60	
理学療法特論		演習					2	60	2	60		
総合理学療法Ⅰ		実習	1	44					1	44		
総合理学療法Ⅱ		実習			1	44			1	44		
総合理学療法Ⅲ		実習					1	44	1	44		
総合理学療法Ⅳ		演習					1	30	1	30		
(小計)			4	134	18	386	16	410	38	930		
地域理学療法		基本動作支援技術	演習	1	30					1	30	
		地域リハビリテーション(地域包括ケア、介護予防)	講義			1	30			1	30	
		生活環境論	講義					1	16	1	16	
(小計)			1	30	1	30	1	16	3	76		
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405	
		臨床実習Ⅲ(地域リハビリテーション実習)	実習			1	45			1	45	
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405	
	(小計)		1	45	10	450	9	405	20	900		
専門分野合計		12	373	36	986	29	905	77	2264			
必修科目授業合計			42	1035	49	1250	37	1045	128	3330		
選択科目授業合計				0		0		0		0		
卒業に必要な総授業時間数			42	1035	49	1250	37	1045	128	3330		

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	鈴木 健司・他	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

医療職としての接遇・対応で配慮すべき点について学習する。

II 到達目標

医療職としての接遇・対応を実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、行動変容
2	グループディスカッション
3	人間関係・コミュニケーション演習 応用①
4	人間関係・コミュニケーション演習 応用②
5	人間関係・コミュニケーション演習 応用③
6	人間関係・コミュニケーション演習 応用④
7	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑤
8	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑥
9	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑦
10	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑧
11	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑨
12	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑩
13	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑪
14	人間関係・コミュニケーション演習 応用⑫
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポート提出および発表にて評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	保健体育Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	永野 真奈美・他	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

グループ活動を通して、主体的な行動、計画性について再学習する。

II 到達目標

グループ活動を実践し、主体的、計画的に行動できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション グループワーク1
2	グループワーク2
3	グループワーク3
4	グループワーク4
5	グループワーク5
6	グループワーク6
7	グループワーク7
8	グループワーク8

IV 成績評価

課題レポートによって評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	臨床心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

心理学で学んだ内容を加味し、心理検査法および心理療法について学習する。

II 到達目標

上記内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床心理とは
2	投影法
3	質問紙法、作業検査法
4	知能検査
5	特殊知能検査
6	心理療法①
7	心理療法②
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

リハベーシック 心理学・臨床心理学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	病理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	長谷川 慎也	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

<p>主要な病態(炎症、感染、腫瘍等)について、その病因と病理学的変化を学習する。</p>

II 到達目標

<p>主要な病態について、病因、病理学的変化を説明できる。</p>

III 学習内容(シラバス)

1	病理学概要・病因論
2	退行性病変, 進行性病変
3	代謝障害
4	循環障害
5	免疫
6	炎症, 感染症
7	腫瘍
8	先天異常・奇形

IV 成績評価

<p>学力試験により評価する。</p>

V 教科書

<p>【標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野】病理学 第5版(医学書院)</p>
--

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	内科と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	笹沼 隆	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

内部障害を引き起こす主な疾患およびがん関連障害の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	循環器疾患 1
2	循環器疾患 2
3	呼吸器疾患 1
4	呼吸器疾患 2
5	消化器疾患 1
6	消化器疾患 2
7	肝胆膵疾患
8	血液・造血器疾患
9	代謝性疾患
10	内分泌疾患
11	腎・泌尿器疾患
12	膠原病・アレルギー疾患、免疫不全
13	感染症疾患
14	中毒および環境要因による疾患
15	皮膚疾患

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる<vol.2> 第5版 循環器 (メディックメディア)
 病気がみえる<vol.3> 第5版 糖尿病・代謝・内分泌 (メディックメディア)
 病気がみえる<Vol.4> 第4版 呼吸器 (メディックメディア)
 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 (医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 老年期障害と理学療法	単位・時間数 1単位・30時間
	講師 長谷川 慎也	担当教員 永野 真奈美

I 教育目標

老年期障害(褥瘡を含む)の病因、病態生理、症候、診断と治療、高齢者医療における注意点について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	人体の構造と機能 復習 1
2	人体の構造と機能 復習 2
3	加齢と老化
4	加齢に伴う心身機能面の変化 1
5	加齢に伴う心身機能面の変化 2
6	加齢に伴う心身機能面の変化 3
7	高齢者に多い疾患の病理
8	高齢者に多い疾患1
9	高齢者に多い疾患2
10	高齢者に多い疾患3
11	高齢者に多い疾患4
12	高齢者に多い疾患5
13	高齢者の理学療法1
14	高齢者の理学療法2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野】老年学 第6版(医学書院)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	整形外科と理学療法	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	田中 靖子	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

骨関節障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動器の構造と機能、疾患の成り立ち 整形外科とは	16	脊椎疾患1
2	変形性関節症 総論	17	脊椎疾患2
3	変形性関節症 各論 変形性膝関節症、変形性股関節症	18	その他の整形外科疾患1
4	その他の関節症	19	その他の整形外科疾患2
5	外傷 総論	20	関節リウマチとその類縁疾患1
6	外傷1 骨折、脱臼 総論 上肢の骨折	21	関節リウマチとその類縁疾患2
7	外傷2 骨折、脱臼各論 骨盤・下肢の骨折・脱臼	22	骨系統疾患 熱傷
8	外傷3 骨折、脱臼各論 体幹の骨折	23	骨腫瘍 切断
9	脊椎損傷・脊髄損傷	24	国家試験問題演習②・まとめ
10	国家試験問題演習①		
11	末梢神経障害3 絞扼性神経障害		
12	末梢神経障害2 骨折・脱臼に伴う神経損傷		
13	スポーツ外傷・スポーツ障害 各論		
14	スポーツ外傷・スポーツ障害 総論		
15	脊椎疾患2		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

病気がみえる<Vol.11>第2版 運動器・整形外科(メディックメディア)
配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	神経内科と理学療法	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	笹沼 隆	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

中枢神経、および末梢神経・筋の障害を引き起こす疾患および痛みを引き起こす疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	神経内科学とは	16	脊髄損傷1
2	神経学的診断法	17	脊髄損傷2
3	神経症候 意識障害 自律神経障害	18	変性疾患・脱髄疾患
4	運動障害1	19	錐体外路の変性疾患
5	運動障害2	20	末梢神経障害
6	感覚障害と疼痛	21	筋疾患
7	高次脳機能障害1	22	てんかん 中毒 感染性疾患
8	高次脳機能障害2	23	小児神経疾患
9	高次脳機能障害3	24	まとめ
10	構音障害、嚥下障害		
11	廃用症候群、誤用症候群		
12	脳血管障害1		
13	脳血管障害2		
14	脳腫瘍、外傷性損傷		
15	認知症		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

【標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野】 神経内科学 第6版(医学書院)
配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 一般臨床医学と理学療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師 稲葉 貴宏・他	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

疾病の診断(生化学的検査、画像検査等)、臨床薬学、救急医学、栄養学の基礎について学習する。

II 到達目標

上記内容についてリハビリテーション・理学療法における活用方法や影響を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	画像診断1 CT、X線単純撮影
2	画像診断2 MRI
3	高次脳機能障害への理学療法介入1
4	高次脳機能障害への理学療法介入2
5	薬理学1 血液、骨粗鬆症、脂質異常症、糖尿病に作用する薬物
6	薬理学2 腎機能障害、血圧調整に作用する薬物
7	薬理学3 呼吸・循環器障害に作用する薬物
8	薬理学4 関節リウマチ、パーキンソン病に作用する薬物
9	薬理学5 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物①
10	薬理学6 精神疾患(気分障害、睡眠障害、統合失調症)に作用する薬物②
11	生化学的検査
12	消化器系疾患の栄養管理
13	循環器系疾患の栄養管理
14	慢性腎臓病の栄養管理
15	医療人として必要な応急処置法、心肺蘇生法(BLS)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

15レクチャーシリーズリハビリテーションテキスト 画像評価学(中山書店)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	臨床運動学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

基本姿勢および基本動作の観察・分析手法を学習する。
 主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の観察および分析について学習する。

II 到達目標

主要な疾患・病態に起因する異常姿勢・動作の特徴、観察および分析のポイントが説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	臨床における動作分析
2	姿勢制御のバイオメカニズム
3	姿勢制御のバイオメカニズム
4	寝返り動作の概要・分析
5	寝返り動作の分析・評価
6	起き上がり動作の概要・分析
7	起き上がり動作の分析・評価
8	寝返り、起き上がり動作の誘導
9	起立・着座動作の概要・分析
10	起立・着座動作の分析・評価
11	起立・着座動作の誘導
12	歩行の概要・分析
13	歩行の分析
14	歩行の分析・評価
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践(メジカルビュー社)
 基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	理学療法研究法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

研究の意義、研究手法、研究計画、研究結果のまとめ方等について学習する。

II 到達目標

研究における論理的思考を身に付け、様々なデータ、情報を明文化できるようになる。
学内発表や学会発表を実施し学術活動を通じた生涯学習方略を経験する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 研究を学ぶ重要性
2	論文とは何か 論文検索の方法
3	論文の構成と読み方
4	研究倫理 研究デザイン
5	論文中の統計手法を学ぶ①
6	論文中の統計手法を学ぶ②
7	論文中の統計手法を学ぶ③
8	文献抄読
9	文献抄読
10	文献抄読
11	文献抄読
12	論文作成
13	論文作成
14	論文添削・修正
15	論文添削・修正

IV 成績評価

学内の発表会や学会発表の内容を踏まえ評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅲ	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	岩澤 祐希	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程・臨床推論を学習する。
整形外科的検査を修得する。

II 到達目標

骨関節疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
骨関節疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。
整形外科的検査について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	骨関節疾患における情報収集
2	骨関節疾患における医療面接
3	形態計測 1
4	形態計測 2
5	ROM-T 1
6	ROM-T 2
7	MMT 1
8	MMT 2
9	整形外科的テスト 1
10	整形外科的テスト 2
11	整形外科的テスト 3
12	障害別理学療法評価 1
13	障害別理学療法評価 2
14	障害別理学療法評価 3
15	障害別理学療法評価 4

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	理学療法評価Ⅳ	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

中枢神経疾患および神経筋疾患に対する理学療法評価過程・臨床推論を学習する。
反射・反応検査を修得する。

II 到達目標

中枢神経疾患および神経筋疾患に対する理学療法評価過程を説明できる。
中枢神経疾患および神経筋疾患の模擬症例に対する理学療法評価を実践できる。
反射・反応検査について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	高次脳機能検査について①
2	高次脳機能検査について②
3	高次脳機能検査について③
4	反射・反応検査(脊髄・脳幹レベル)
5	反射・反応検査(中脳・大脳皮質レベル)
6	協調性障害の評価①
7	協調性障害の評価②
8	バランス検査①
9	バランス検査②
10	中枢神経疾患の症例検討①
11	中枢神経疾患の症例検討②
12	検査測定の復習(感覚検査)
13	検査測定の復習(筋緊張検査)
14	検査測定の復習(脳神経検査)
15	検査測定の復習(深部腱反射)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)
症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	運動療法Ⅱ	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

協調性改善運動、バランス練習、持久力増強運動、基本動作練習について学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学習する。

II 到達目標

上記の運動療法について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動療法概要(オリエンテーション)	16	持久力増強訓練④
2	協調性障害とは	17	基本動作(寝返り動作・起き上がり動作)の復習
3	協調性改善運動演習①	18	基本動作(立ち上がり動作・床上動作等)の復習
4	協調性改善運動演習②	19	基本動作訓練演習①
5	協調性改善運動演習③	20	基本動作訓練演習②
6	協調性改善運動演習④	21	基本動作訓練演習③
7	バランスとは	22	基本動作訓練演習④
8	バランス訓練①	23	基本動作訓練演習⑤
9	バランス訓練②	24	まとめ
10	バランス訓練③		
11	バランス訓練④		
12	呼吸・循環機能の復習		
13	持久力増強訓練①		
14	持久力増強訓練②		
15	持久力増強訓練③		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	物理療法	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	本宮 光信	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

物理療法の基礎、物理療法の種類および病態・障害に対する適応と禁忌、実施方法について学習する。

II 到達目標

物理療法の種類、病態・障害に対する適応と禁忌について説明できる
基本的な物理療法について実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論(熱力学、光線、電気、水流、浮力、静水圧)
2	温熱療法1 熱力学と熱の移動
3	温熱療法2 伝導熱(ホットパック)
4	温熱療法3 生理的作用、臨床適応
5	温熱療法4 演習
6	エネルギー変換熱(極超短波療法)1
7	極超短波療法2 生理的作用、臨床適応
8	極超短波療法3 演習
9	電気療法
10	電気療法 TENSの臨床適応
11	電気療法 演習
12	炎症と組織修復に対する物理療法の選択
13	疼痛に対する物理療法の選択
14	トーン異常に対する物理療法の選択
15	運動制限に対する物理療法の選択

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	日常生活活動	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

日常生活活動(ADL)の概念と範囲(基本的ADL,応用的ADL)、ADLの評価方法(Barthel Index、FIM等)、ADL制限と福祉用具の適応について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・ADLの概念と範囲
2	ADL評価の目的と実際
3	ADL評価法1(Barthel Index・その他)
4	ADL評価法2(FIM)
5	ADLの運動学と障害学1(運動発達の観点からの運動学)
6	ADLの運動学と障害学2(ADLの運動学的分析)
7	ADLの運動学と障害学3(ADLの運動学的分析)
8	生活環境と生活関連動作1(生活関連活動の概念)
9	生活環境と生活関連動作2(生活環境の評価と問題解決のアルゴリズム)
10	ADLを支援するリハビリテーション機器1(ADLと車椅子)
11	ADLを支援するリハビリテーション機器2(ADLと自助具・補装具)
12	ADLを支援するリハビリテーション機器3(ADLと自助具・補装具)
13	疾患別ADLの評価と指導の実際1(脳血管疾患)
14	疾患別ADLの評価と指導の実際2(人工関節術後)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	装具学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	戸田 伸	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

機能低下および変形に対する装具療法の適応および調整方法について学習する。

II 到達目標

装具療法の適応および調整方法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	正常歩行について
3	原理・目的・分類
4	構造と名称
5	下肢装具 1
6	下肢装具 2
7	下肢装具 3
8	靴型装具
9	体幹装具 1
10	体幹装具 2
11	上肢装具 1
12	上肢装具 2
13	疾患別装具 1
14	疾患別装具 2
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 人見 満雄	担当教員 永野 真奈美

I 教育目標

骨関節疾患(骨折、変形性関節症、関節リウマチ等)に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論 高齢者と骨関節疾患	16	人工股・膝関節置換術
2	骨折と脱臼 総論	17	変形性股関節症 評価と理学療法
3	上肢骨折	18	人工股関節置換術 評価と理学療法
4	下肢骨折	19	変形性膝関節症 評価と理学療法
5	大腿骨頸部骨折	20	人工膝関節置換術 評価と理学療法
6	骨関節疾患における検査・測定1	21	スポーツ外傷・靭帯損傷
7	骨関節疾患における検査・測定2	22	靭帯損傷 評価と理学療法
8	高齢者の4大骨折 評価と理学療法1	23	肩関節疾患
9	高齢者の4大骨折 評価と理学療法2	24	肩関節疾患 評価と理学療法
10	高齢者の4大骨折 評価と理学療法3		
11	脊椎疾患1 ヘルニア、根症状		
12	脊椎疾患 評価と理学療法		
13	術後管理(痛み、腫脹、浮腫)		
14	変形性股関節症		
15	変形性膝関節症		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

運動器疾患の治療とリハビリテーション(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	疾患別理学療法Ⅱ (成人中枢)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	奥平 貴仁	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

理学療法の主な対象疾患である脳卒中の理学療法について学ぶ。特に脳卒中の病期(急性期・回復期・維持期)での評価)や治療介入法と、片麻痺介入法について理論と介入技術を演習にて学習する。

II 到達目標

脳卒中の病期別の評価の視点、介入法について理解する。それにより臨床実習での評価法・臨床思考過程について理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 脳卒中の概要	16	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)②
2	脳卒中の理学療法概要	17	脳卒中に対する理学療法(筋力に対するアプローチ)①
3	脳卒中の理学療法評価	18	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)①
4	脳卒中の理学療法評価演習①	19	脳卒中に対する理学療法(高次脳機能障害に対するアプローチ)②
5	脳卒中の理学療法評価演習②	20	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)①
6	脳卒中の理学療法(急性期)①	21	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)②
7	脳卒中の理学療法(急性期)②	22	脳卒中に対する理学療法(基本動作に対するアプローチ)③
8	脳卒中の理学療法(回復期)①	23	脳卒中に対する理学療法(ADLに対するアプローチ)①
9	脳卒中の理学療法(回復期)②	24	まとめ
10	脳卒中の理学療法(維持期)①		
11	脳卒中の理学療法(維持期)②		
12	片麻痺の対する装具、自助具		
13	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)①		
14	脳卒中に対する理学療法(麻痺に対するアプローチ)②		
15	脳卒中に対する理学療法(関節可動域に対するアプローチ)①		

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書

脳卒中ビジュアルテキスト 第4版(医学書院)
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師 沖野・益盛	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

神経筋疾患(パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症等)および脊髄損傷に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	パーキンソン病・パーキンソン症候群の概要・特徴	16	神経筋接合部疾患、重症筋無力症の評価と理学療法2
2	パーキンソン病・パーキンソン症候群に対する評価	17	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する理学療法評価法・理学療法1
3	パーキンソン病・パーキンソン症候群に対する理学療法1	18	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する理学療法評価法・理学療法2
4	パーキンソン病・パーキンソン症候群に対する理学療法2	19	脊髄損傷の概要・特徴
5	運動失調に対する検査法	20	脊髄損傷に対する評価
6	運動失調に対する理学療法	21	脊髄損傷に対する理学療法1
7	脊髄小脳変性症に対する評価	22	脊髄損傷に対する理学療法2
8	脊髄小脳変性症に対する理学療法	23	疼痛、めまいの理学療法
9	筋萎縮性側索硬化症に対する評価法	24	まとめ
10	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法		
11	脱髄性疾患、多発性硬化症に対する評価と理学療法1		
12	脱髄性疾患、多発性硬化症に対する評価と理学療法2		
13	末梢神経障害、ギランバレー症候群、シャルコ・マリー・トゥース病の 評価と理学療法1		
14	末梢神経障害、ギランバレー症候群、シャルコ・マリー・トゥース病の 評価と理学療法2		
15	神経筋接合部疾患、重症筋無力症の評価と理学療法1		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 理学療法総合理解Ⅱ	単位・時間数 2単位・60時間
	講師 永野 真奈美・他	担当教員 永野 真奈美

I 教育目標

1年次および2年次に学習した理学療法評価、臨床医学、領域別理学療法とのつながりを復習する。また、自立した学習スタイルを体得する。

II 到達目標

1年次および2年次に学習した理学療法評価、臨床医学と領域別理学療法とのつながりを理解する。また、自立した学習スタイルを体得する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 理学療法評価 演習1	16	臨床医学 演習10
2	理学療法評価 演習2	17	臨床医学 演習11
3	理学療法評価 演習3	18	臨床医学 演習12
4	理学療法評価 演習4	19	基礎PT学 演習1
5	理学療法評価 演習5	20	基礎PT学 演習2
6	理学療法評価 演習6	21	基礎PT学 演習3
7	臨床医学 演習1	22	基礎PT学 演習4
8	臨床医学 演習2	23	基礎PT学 演習5
9	臨床医学 演習3	24	基礎PT学 演習6
10	臨床医学 演習4	25	基礎PT学 演習7
11	臨床医学 演習5	26	基礎PT学 演習8
12	臨床医学 演習6	27	基礎PT学 演習9
13	臨床医学 演習7	28	基礎PT学 演習10
14	臨床医学 演習8	29	基礎PT学 演習11
15	臨床医学 演習9	30	基礎PT学 演習12

IV 成績評価

終講試験によって評価する。

V 教科書

理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門基礎分野 臨床医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2026 専門分野 PT治療学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 専門基礎分野 基礎医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2025 専門分野 基礎PT学(医歯薬出版)
 配布プリント

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 総合理学療法Ⅱ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師 永野 真奈美・他	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

臨床実習Ⅱに向けた準備として知識の総復習を行う。特に検査測定の実施と結果の理解および理学療法計画の設定について理解を深める。

II 到達目標

臨床実習Ⅱに必要な知識と技能を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	症候学と障害学の考え方1	16	症例検討 演習2
2	症候学と障害学の考え方2	17	症例検討 演習3
3	統合と解釈の仕方1	18	症例検討 演習4
4	統合と解釈の仕方2	19	症例検討 演習5
5	問題点抽出の仕方1	20	症例検討 演習6
6	問題点抽出の仕方2	21	症例検討 演習7
7	目標設定の仕方1	22	症例検討 演習8
8	目標設定の仕方2		
9	ケーススタディ		
10	病態の理解		
11	仮説を組み立てる		
12	統合と解釈 演習		
13	問題点抽出 演習		
14	目標設定、治療計画立案 演習		
15	症例検討 演習1		

IV 成績評価

学力試験によって評価する。

V 教科書

症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈 実践テキスト(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	地域リハビリテーション (地域包括ケア、介護予防)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	八鍬 光信・永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

地域リハビリテーションの概念、地域における活動、地域包括ケアにおける理学療法士の役割、健康維持・増進や介護予防、終末期医療における理学療法士の活動について学習する。

II 到達目標

上記内容を理解し、地域における理学療法士の役割、活動内容を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	地域リハビリテーション概論 ノーマライゼーション
2	要介護者に対する介護サービス
3	ニーズの把握と社会資源
4	施設における理学療法の展開 介護老人保健施設
5	施設における理学療法の展開 通所リハビリテーション
6	施設における理学療法の展開 訪問理学療法の展開
7	介護予防 地域ケア会議 障害者総合支援法
8	ライフステージと理学療法
9	評価・プログラム作成上のポイント
10	フィールドワーク①
11	フィールドワーク②
12	フィールドワーク③
13	フィールドワーク④
14	フィールドワーク発表①
15	フィールドワーク発表②

IV 成績評価

学力試験、課題レポート発表により評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	9単位・405時間
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

医療施設等において対象者の評価(検査測定、問題点抽出および目標設定)、理学療法介入計画立案について臨床実習指導者の管理・監督の下で体験し学習する。
医療チームの一員として果たすべき役割について学習する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

臨床実習Ⅱ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、症例レポート、症例要旨、デイリーノート等により総合的に判断して評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅱ手引き

2025年 医学アカデミー医療学部理学療法学科 昼間課程

2学年	科目 臨床実習Ⅲ (地域リハビリテーション実習)	単位・時間数	1単位・45時間
	講師	担当教員	永野 真奈美 杉田 貴寛

I 教育目標

通所リハビリテーション施設および訪問リハビリテーション施設において利用者に対する理学療法を見学し、理学療法の一部について体験する。
地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

臨床実習Ⅲ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、症例レポート、症例要旨、デイリーノート等により総合的に判断して評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅲ手引き

2学年	科目	HR、特別講義 等	回数	適宜開催
	講師	永野 真奈美	担当教員	永野 真奈美

その他、以下の講義等を設定する。

- ①ホームルーム
- ②臨床実習対策
- ③授業の復習および国家試験対策 等
- ④その他、特別講義

以上、開催される授業等には参加すること。

学校法人医学アカデミー
医学アカデミー 理学療法学科
〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1丁目18番地1
TEL. 049-245-6853(教務直通)
e-mail. info@iapt.igakuacademy.ac.jp

講義要綱

2025年度

昼間課程 3学年

学年担任 古谷 友希



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目次

昼間課程 単位表	4
昼間課程 3学年		
医学英語Ⅱ	5
医療統計	6
人体とバイオメカニクス	7
関連法規	8
精神医学と理学療法	9
小児科と理学療法	10
疾病予防と健康管理	11
理学療法管理学	12
理学療法評価Ⅴ	13
運動療法Ⅲ	14
日常生活活動演習	15
義肢学	16
疾患別理学療法Ⅳ(内部障害)	17
疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)	18
理学療法演習	19
理学療法総理解Ⅲ	20
理学療法特論	21
総合理学療法Ⅲ	22
総合理学療法Ⅳ	23
生活環境論	24
臨床実習Ⅳ	25
HR、特別講義等	26

医療専門課程理学療法学科(昼間課程)

科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数		
			単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間				
基礎分野	科学的思考の 基盤	医学英語Ⅰ	1	16					1	16		
		医学英語Ⅱ					1	16	1	16		
		情報科学:プレゼンテーション	1	30					1	30		
		医療統計					1	16	1	16		
		人体とバイオメカニクス					1	16	1	16		
	人間と生活	医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法の職域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係:コミュニケーション論Ⅰ	演習	3	48					3	48	
		人間関係:コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	30			1	30	
		保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
	社会の理解	公衆衛生	講義	1	16					1	16	
	基礎合計			10	188	2	46	4	64	16	288	
専門基礎分野	人体の構造と 機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ(神経系の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ(神経系の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ(運動器系の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ(運動器系の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ(内臓諸器官の構造)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ(内臓諸器官の機能)	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習(表面解剖)	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ(四肢体幹の運動)	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ(姿勢と動作)	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ(運動生理・運動学習)	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		(小計)		17	412	0	0	0	0	17	412	
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30
	臨床心理		講義			1	16			1	16	
	病理		講義			1	16			1	16	
	内科と理学療法		講義	1	30					1	30	
	老年期障害と理学療法		講義	1	30					1	30	
	整形外科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	神経内科と理学療法		講義	3	48					3	48	
	精神医学と理学療法		講義					1	30	1	30	
	小児科と理学療法		講義					1	16	1	16	
	一般臨床医学と理学療法		講義			1	30			1	30	
	(小計)		1	30	11	218	2	46	14	294		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
		(小計)		2	32	0	0	2	30	4	62	
	専門基礎分野合計			20	474	11	218	4	76	35	768	
	専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
			理学療法研究法	講義			2	30			2	30
			(小計)		3	60	3	60	0	0	6	120
理学療法管理学		理学療法管理学	講義					2	30	2	30	
		(小計)		0	0	0	0	2	30	2	30	
理学療法評価学		理学療法評価概論	講義	1	16					1	16	
		理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅲ	演習			2	30			2	30	
		理学療法評価Ⅳ	演習			2	30			2	30	
		理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44	
		(小計)		3	104	4	60	1	44	8	208	
理学療法治療学		運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		運動療法Ⅱ	演習			3	48			3	48	
		運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30	
		物理療法	演習			1	30			1	30	
		日常生活活動	講義							1	30	
		日常生活活動演習	演習	1	30					1	30	
		装具学	講義	1	30			3	48	3	48	
		義肢学	講義					1	30	1	30	
		疾患別理学療法Ⅰ(骨関節)	演習	3	48					3	48	
		疾患別理学療法Ⅱ(成人中枢)	演習	3	48					3	48	
		疾患別理学療法Ⅲ(神経筋)	演習	3	48					3	48	
		疾患別理学療法Ⅳ(内部障害)	演習					3	48	3	48	
		疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)	講義					1	16	1	16	
		理学療法演習	実習					1	44	1	44	
		理学療法総合理解Ⅰ	演習	2	60					2	60	
		理学療法総合理解Ⅱ	演習			2	60			2	60	
		理学療法総合理解Ⅲ	演習					2	60	2	60	
		理学療法特論	演習					2	60	2	60	
		総合理学療法Ⅰ	実習	1	44					1	44	
		総合理学療法Ⅱ	実習			1	44			1	44	
総合理学療法Ⅲ		実習					1	44	1	44		
総合理学療法Ⅳ		演習					1	30	1	30		
(小計)			4	134	18	386	16	410	38	930		
地域理学療法		基本動作支援技術	演習	1	30					1	30	
		地域リハビリテーション(地域包括ケア、介護予防)	講義			1	30			1	30	
		生活環境論	講義					1	16	1	16	
(小計)			1	30	1	30	1	16	3	76		
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405	
		臨床実習Ⅲ(地域リハビリテーション実習)	実習			1	45			1	45	
		臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405	
	(小計)		1	45	10	450	9	405	20	900		
専門分野合計			12	373	36	986	29	905	77	2264		
必修科目授業合計			42	1035	49	1250	37	1045	128	3330		
選択科目授業合計				0		0		0	0	0		
卒業に必要な総授業時間数			42	1035	49	1250	37	1045	128	3330		

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	医学英語Ⅱ	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

英文論文を抄読し、医学英語の表現について学習する。

II 到達目標

医学英語の表現について、大まかな内容を把握できる。

III 学習内容(シラバス)

1	英語文献の読み方
2	神経障害に関する文献抄読 1
3	神経障害に関する文献抄読 2
4	神経障害に関する文献抄読 3
5	運動器障害に関する文献抄読 1
6	運動器障害に関する文献抄読 2
7	運動器障害に関する文献抄読 3
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	医療統計	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

統計手法、統計結果の読解、表計算ソフトとを利用した統計処理について学習する。

II 到達目標

表計算ソフトを利用して簡単なデータの統計処理を実践できる。
理学療法士が研究で活用する基礎的な統計手法を理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	合計、平均、グラフ作成等の基本的なデータ処理を学習する。
2	数式やグラフを用いてデータを比較する。
3	データの種類と尺度水準を学習する。
4	平均と度数分布、分散と標準偏差の違いを学習する。
5	2群の差の検定
6	相関関係
7	演習①
8	演習②

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	人体とバイオメカニクス	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	伊藤 貴紀	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

「てこ」と「モーメント」の力学を理解し、生体に応用できるようになる。

II 到達目標

筋の起始停止を踏まえて、各関節をてこの原理で説明できる。
「モーメントを理解し、動作における「モーメント」を考えることができる。

III 学習内容(シラバス)

1	力の合成と分解、三角関数
2	生体におけるテコ
3	重心の求め方、重心の速度・加速度
4	床反力と重心加速度
5	関節モーメントと筋活動
6	歩行のバイオメカニクス①
7	歩行のバイオメカニクス②
8	歩行のバイオメカニクス③

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

基礎運動学 第6版 補訂 (医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	関連法規	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	渡邊 洸太

I 教育目標

関連職種の法律と診療報酬について理学療法に関する法制度の基本的な知識を身につける。

II 到達目標

理学療法士が知っておくべき法制度の基本的事項を説明できる

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法士、作業療法士法 1
2	理学療法士、作業療法士法 2
3	医療保険とリハビリテーション
4	医療保険と理学療法士
5	介護保険とリハビリテーション
6	介護保険と理学療法士
7	施設基準と診療報酬制度 1
8	施設基準と診療報酬制度 2

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年

科目 精神医学と理学療法

単位・時間数 1単位・30時間

講師 鈴木 健司

担当教員 鈴木 健司

I 教育目標

精神科領域の理学療法対象疾患に関する、精神活動や行動およびその治療法を学び、理学療法介入時に対応できるようになる。
主に統合失調症・気分障害・てんかん・アルコール関連疾患について学ぶ。

II 到達目標

理学療法の臨床場面において、精神科領域の対象者に対応できる知識と介入対処方法を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 精神医学について
2	心理検査
3	神経症とストレス関連障害
4	心身症
5	統合失調症①
6	統合失調症②
7	気分障害
8	外因性精神障害
9	症状性精神障害
10	物質関連障害群・物質依存症
11	てんかん
12	その他の精神障害
13	精神科の治療法①
14	精神科の治療法②
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	小児科と理学療法	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	稲葉 貴宏	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

小児の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療について学習する。

II 到達目標

上記疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	小児科学総論、成長と発達と反射
2	新生児疾患、核黄疸、脳性麻痺
3	先天異常と遺伝病、血友病、貧血、染色体異常
4	進行性筋ジストロフィー
5	小児の感染症①(細菌性とウイルス性)
6	小児の感染症②(胎児期～乳幼児期～学童期)
7	胎児循環、チアノーゼ(Down症に合併)、ファローの4徴候
8	先天性心疾患、消化器疾患まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	疾病予防と健康管理	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

予防の概念を理解し、健康管理のあり方、ストレスと健康の関係、行動変容、個別指導・集団指導について学習する。予防分野における理学療法士の役割の理解を深める。

II 到達目標

疾病予防、健康管理の重要性、それに働きかけるための方法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	予防の概念 一次予防・二次予防・三次予防
3	健康管理の在り方
4	行動変容について
5	個別指導・集団指導について
6	生活習慣病が関連する疾病の予防①
7	生活習慣病が関連する疾病の予防②
8	生活習慣病が関連する疾病の予防③
9	認知症予防①
10	認知症予防②
11	運動器症候群の予防①
12	運動器症候群の予防②
13	フレイルの予防
14	ストレスと健康の関係
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	理学療法管理学	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	土屋 稔	担当教員	土屋 稔

I 教育目標

理学療法部門管理、理学療法倫理、理学療法教育について学習し、理学療法士として必要な専門性および職業倫理を身につける。

II 到達目標

理学療法業務の専門性を理解するとともに、保険制度、職業倫理、職業教育などについて理解する。

III 学習内容(シラバス)

1	総論
2	病院の分類と組織
3	専門職とチームケア
4	社会保障のしくみ
5	医療保険制度
6	介護保険制度
7	診療・介護報酬と収益構造
8	保健・医療・介護・福祉の連携
9	業務管理
10	情報管理
11	リスク管理
12	感染症管理
13	権利擁護と職業倫理
14	教育管理
15	理学療法士の政治・政策への関与

IV 成績評価

課題レポートにて評価をする。

V 教科書

理学療法テキスト 理学療法管理学(15レクチャーシリーズ)(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目 理学療法評価Ⅴ	単位・時間数 1単位・44時間
	講師 稲葉 貴宏 渡邊 洸太	担当教員 稲葉 貴宏

I 教育目標

理学療法評価概論及び理学療法評価Ⅰ～Ⅳの内容について再学習をし、理解を深める。

II 到達目標

模擬症例(骨関節疾患、中枢神経疾患及び神経筋疾患)に対する理学療法評価の考察及び臨床推論ができる。

III 学習内容(シラバス)

1	検査測定のリ習	16	中枢神経疾患の理学療法評価 1
2	検査測定のリ習	17	中枢神経疾患の理学療法評価 2
3	検査測定のリ習	18	中枢神経疾患の理学療法評価 3
4	検査測定のリ習	19	神経筋疾患の理学療法評価 1
5	検査測定のリ習	20	神経筋疾患の理学療法評価 2
6	検査測定のリ習	21	神経筋疾患の理学療法評価 3
7	情報収集の仕方	22	まとめ
8	検査測定項目立案		
9	統合と解釈		
10	問題点抽出		
11	目標設定		
12	理学療法プログラム立案		
13	骨関節疾患の理学療法評価 1		
14	骨関節疾患の理学療法評価 2		
15	骨関節疾患の理学療法評価 3		

IV 成績評価

学力試験にて評価する

V 教科書

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
 統合と解釈がよくわかる 実践!理学療法評価学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	運動療法Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 龍一	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

運動療法のいくつかの体系化された方法論(概念・手法・演習)を学びます。特に神経系運動療法の基礎(感覚受容から中枢そして効果器)を再学習して、それらを応用した運動療法手技を体験し身に付ける。

II 到達目標

いくつかの体系された運動療法の理論(根拠)を理解することが出来るようになって頂きたいと思います。臨床介入時に根拠のある選択枝となることを期待しています。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	下肢の触診
3	関節モビライゼーションの意味と用途、注意点
4	股関節のモビライゼーション①・膝関節のモビライゼーション①
5	股関節のモビライゼーション②・膝関節のモビライゼーション②
6	股関節のモビライゼーション③・膝関節のモビライゼーション③
7	マッサージの用途、横断マッサージ、機能的マッサージ
8	PNF法の概要、促通手技
9	PNF法 下肢の屈曲・伸展パターン①
10	PNF法 下肢の屈曲・伸展パターン②
11	PNF法 骨盤パターン
12	PNF 立ち上がりの促通
13	回復期リハにおける大腿骨頸部骨折の臨床の実践①
14	回復期リハにおける大腿骨頸部骨折の臨床の実践②
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにて評価をする。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	日常生活活動演習	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	人見 満雄	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

主な疾患(運動器障害、神経障害)・病態・障害によるADL制限の評価、指導方法について学習する。

II 到達目標

主要な疾患・病態・障害に対するADL制限の評価、指導方法を説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・運動器疾患の復習	16	脳血管障害のADL
2	大腿骨内側・外側骨折の病態・手術	17	神経筋疾患の概要
3	大腿骨内側・外側骨折の病態・手術	18	神経筋疾患の症状
4	大腿骨内側・外側の治療・ADL障害・指導	19	神経筋疾患の評価と治療
5	変形性股関節症の病態・手術	20	神経筋疾患とADL
6	変形性股関節症の治療・ADL障害・指導	21	脊髄損傷の概要
7	変形性膝関節症の病態・手術	22	脊髄損傷の症状
8	変形性膝関節症の治療・ADL障害・指導	23	脊髄損傷と評価と治療
9	頸椎症の病態・治療・ADL障害・指導	24	脊髄損傷とADL
10	脊椎骨折の病態・ADL障害・指導		
11	関節リウマチの病態・手術		
12	関節リウマチの治療・ADL障害・指導		
13	脳血管障害概要		
14	脳血管障害の症状		
15	脳血管障害の評価と治療		

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

Crosslink理学療法学テキスト 日常生活活動学(メジカルビュー社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	義肢学	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	戸田 伸	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

切断・四肢欠損に対する義肢の適応および義肢の構造的特徴について学習する。

II 到達目標

義肢の適応・構造的特徴について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	切断者の現状・疾患による切断
2	切断の手技・術後管理
3	上肢切断・下肢切断
4	断端管理・周径
5	大腿義足
6	大腿義足(ベンチアライメント)
7	大腿義足(スタティックアライメント)
8	大腿義足(ダイナミックアライメント)
9	下腿義足(ベンチアライメント)
10	下腿義足(スタティックアライメント)
11	下腿義足(ダイナミックアライメント)
12	義足の部品(膝継手)
13	義足の部品(足部)
14	義足のADL動作
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版(羊土社)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目 疾患別理学療法Ⅳ(内部障害)	単位・時間数 3単位・48時間
	講師 古谷 友希	担当教員 古谷 友希

I 教育目標

循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患、腎疾患および悪性腫瘍に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器疾患の基礎	16	代謝疾患の評価
2	呼吸器疾患のリハビリテーション	17	代謝疾患の理学療法
3	呼吸器疾患の評価1	18	その他内部障害の基礎
4	呼吸器疾患の評価2	19	その他内部障害の評価1
5	呼吸器疾患の理学療法1	20	その他内部障害の評価2
6	呼吸器疾患の理学療法2	21	その他内部障害の理学療法1
7	呼吸器疾患の理学療法3	22	その他内部障害の理学療法2
8	循環器疾患の基礎	23	内部障害の在宅リハビリテーション1
9	循環器疾患のリハビリテーション	24	内部障害の在宅リハビリテーション2
10	循環器疾患の評価1		
11	循環器疾患の評価2		
12	循環器疾患の理学療法1		
13	循環器疾患の理学療法2		
14	循環器疾患の理学療法3		
15	代謝疾患の基礎		

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

最新理学療法学講座 内部障害理学療法学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	疾患別理学療法Ⅴ(小児発達障害)	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	稲葉 貴宏	担当教員	稲葉 貴宏

I 教育目標

小児発達障害(脳性麻痺、二分脊椎、ダウン症等)に対する理学療法を学習する。

II 到達目標

上記疾患に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	発達障害 概論
2	脳性麻痺 総論
3	脳性麻痺 乳児期～幼児期への理学療法介入
4	脳性麻痺 学童期～成人期への理学療法介入
5	二分脊椎への理学療法介入
6	ダウン症候群への理学療法介入
7	低出生体重児 ポジショニング
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書

15レクチャー理学療法テキスト 小児理学療法学(中山書店)

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	理学療法演習	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	永野 真奈美・他	担当教員	永野 真奈美

I 教育目標

ウィメンズヘルス、スポーツ障害、老年期障害、産業分野等に対する理学療法について理解する。
また、疾患別理学療法 I～V の内容について再学習し、理解を深める。

II 到達目標

ウィメンズヘルス、スポーツ障害、老年期障害、産業分野等に対する理学療法について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・ウィメンズヘルスとは	16	アキレス腱断裂のADL障害・治療
2	ウィメンズヘルスにおける基礎知識 1	17	半月板損傷の病態・ADL障害・治療
3	ウィメンズヘルスにおける基礎知識 2	18	反復性肩関節脱臼の病態
4	年代別の特徴と障害	19	反復性肩関節脱臼のADL障害・治療
5	ウィメンズヘルスリハビリテーション 1	20	腱板断裂の病態・ADL障害・治療
6	ウィメンズヘルスリハビリテーション 2	21	スポーツ外傷と物理療法
7	高齢者の特徴	22	スポーツ外傷と物理療法
8	高齢者に多い疾患と理学療法		
9	嚥下障害における理学療法		
10	栄養障害における理学療法		
11	産業理学療法		
12	スポーツ外傷		
13	前十字靭帯断裂・後十字靭帯断裂の病態		
14	前十字靭帯断裂・後十字靭帯断裂のADL障害・治療		
15	アキレス腱断裂の病態		

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目 理学療法総合理解Ⅲ	単位・時間数 2単位・60時間
	講師 古谷 友希	担当教員 古谷 友希

I 教育目標

これまでに学習した人体の構造と機能および病態に対する知識を整理しまとめることで、疾病や障害を理解できるようにする。

II 到達目標

人体の構造と機能と病態理解を中心に、理学療法士に必要な総合的知識を修得する。

III 学習内容(シラバス)

1	演習①	16	演習⑩
2	演習②	17	演習⑪
3	演習③	18	演習⑫
4	演習④	19	演習⑬
5	演習⑤	20	演習⑭
6	演習⑥	21	演習⑮
7	演習⑦	22	演習⑯
8	演習⑧	23	演習⑰
9	演習⑨	24	演習⑱
10	演習⑩	25	演習⑲
11	演習⑪	26	演習⑳
12	演習⑫	27	演習㉑
13	演習⑬	28	演習㉒
14	演習⑭	29	演習㉓
15	演習⑮	30	演習㉔

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	理学療法特論	単位・時間数	2単位・60時間
	講師	鈴木 健司・他	担当教員	鈴木 健司

I 教育目標

理学療法を体系的に理解し、卒業研究を行う。
研究室の教員の指導の下、卒業論文を作成する。

II 到達目標

卒業論文を作成する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	経過報告2
2	演習1	17	演習14
3	演習2	18	演習15
4	演習3	19	演習16
5	演習4	20	演習17
6	演習5	21	演習18
7	演習6	22	演習19
8	演習7	23	演習20
9	演習8	24	演習21
10	演習9	25	演習22
11	演習10	26	演習23
12	演習11	27	演習24
13	演習12	28	演習25
14	演習13	29	最終報告1
15	経過報告1	30	最終報告2

IV 成績評価

レポート課題にて評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	総合理学療法Ⅲ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

臨床実習Ⅳに向けた準備として知識及び技術の総復習を行う。特に経過の確認および効果判定をし、理学療法評価の再設定について理解を深める。

II 到達目標

臨床実習Ⅳに必要な知識と技能を習得する。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション・実習の課題	16	整形外科疾患の評価と治療⑥
2	理学療法介入の流れの復習	17	整形外科疾患の評価と治療⑦
3	統合と解釈 中枢疾患の評価と治療①	18	整形外科疾患の評価と治療⑧
4	中枢疾患の評価と治療②	19	OSCE①
5	中枢疾患の評価と治療③	20	OSCE②
6	中枢疾患の評価と治療④	21	ケーススタディ①
7	中枢疾患の評価と治療⑤	22	ケーススタディ②
8	中枢疾患の評価と治療⑥		
9	中枢疾患の評価と治療⑦		
10	中枢疾患の評価と治療⑧		
11	整形外科疾患の評価と治療①		
12	整形外科疾患の評価と治療②		
13	整形外科疾患の評価と治療③		
14	整形外科疾患の評価と治療④		
15	整形外科疾患の評価と治療⑤		

IV 成績評価

実技試験(口頭試問を含む)、課題レポートにより評価する。

V 教科書

配布プリント 他

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	総合理学療法Ⅳ	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

修業年間、学内および臨床で学んだ理学療法に対する理解の深化のため、専門科目・専門基礎科目の復習を行い、理学療法の理解をより深める。

II 到達目標

専門科目、専門基礎科目の再学習を行い、理学療法士として必要な知識を習得できる。

III 学習内容(シラバス)

1	理学療法総理解1 オリエンテーション、学習範囲の確認
2	理学療法総理解2 基礎医学分野①
3	理学療法総理解3 臨床医学分野①
4	理学療法総理解4 基礎PT分野①
5	理学療法総理解5 疾患別PT①
6	理学療法総理解6 演習①
7	理学療法総理解7 演習②
8	理学療法総理解8 演習③
9	理学療法総理解9 演習④
10	理学療法総理解10 基礎医学分野②
11	理学療法総理解11 臨床医学分野②
12	理学療法総理解12 基礎PT分野②
13	理学療法総理解13 疾患別PT②
14	理学療法総理解14 演習⑤
15	理学療法総理解15 演習⑥

IV 成績評価

学力試験にて評価する。

V 教科書

配布プリント

参考図書: 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2023 基礎医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士 国家試験必修ポイント2024 臨床医学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2023 基礎PT学(医歯薬出版)
 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2024 障害別PT治療学(医歯薬出版)

2025年 医学アカデミー—理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	臨床実習Ⅳ	単位・時間数	9単位・405時間
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

医療施設等において対象者の評価(検査測定、問題点抽出および目標設定)、理学療法介入体験および効果判定について臨床実習指導者の管理・監督の下で体験し学習する。
医療チームの一員として果たすべき役割について学習する。

II 到達目標

上記内容について、臨床実習指導者の管理・監督の下で実施し、記録を作成できる。

III 学習内容(シラバス)

実習は学内事前実習(7日間)、施設実習(7週間)、学内事後実習(3日間)をもって構成する。

※詳細は臨床実習Ⅳ手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

学内事前実習評価(実習計画書を含む)、施設実習評価、学内事後実習評価を総合的に勘案して決定する。
実習事前・事後評価は、客観的臨床能力試験(OSCE)等を用いて評価する。

V 教科書

臨床実習Ⅳ手引き

2025年 医学アカデミー理学療法学科 昼間課程

3学年	科目	HR、特別講義 等	単位・時間数	適宜開催
	講師	古谷 友希	担当教員	古谷 友希

I 教育目標

臨床実習ならびに理学療法士国家試験受験に向けた意識づけを行う。また、学内教員とともに就職支援を行い、将来の具体的なイメージを持てるようにする。

II 到達目標

クラス全員で国家試験に挑むことができる。

III 学習内容(シラバス)

1	今年度のスケジュール確認 3年生としての心構えについて 国家試験に向けてのマインドセット
2	臨床実習Ⅳ指導者会議について
3	4月の振り返り 実習準備について
4	臨床実習について
5	臨床実習Ⅳの振り返り 就職説明会について
6	夏休みの過ごし方について
7	9月以降のスケジュール確認
8	国家試験に向けて
9	国家試験に向けて
10	国家試験に向けて
11	冬休み期間の過ごし方
12	1月～2月の過ごし方について
13	国家試験に向けて(激励会) 【国試まで2d?】
14	国家試験自己採点・免許申請手続き等について

IV 成績評価

全ての科目の単位履修

V 教科書

配布プリント 他

学校法人医学アカデミー
医学アカデミー 理学療法学科
〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1丁目18番地1
TEL. 049-245-6853(教務直通)
e-mail. info@iapt.igakuacademy.ac.jp